

課題2

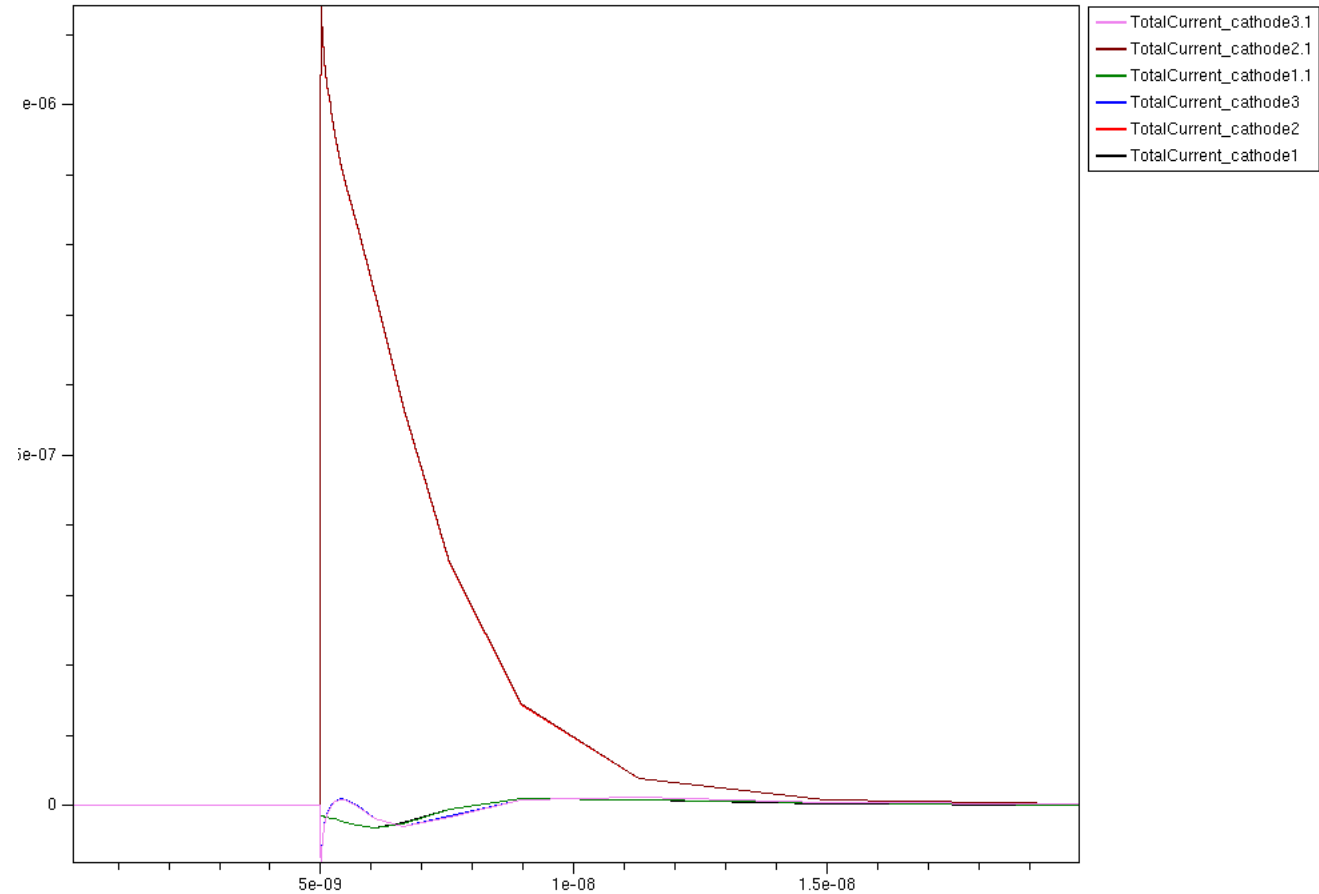
TID300でMIPの応答をみた。
Pstopを消す前後で変化なし



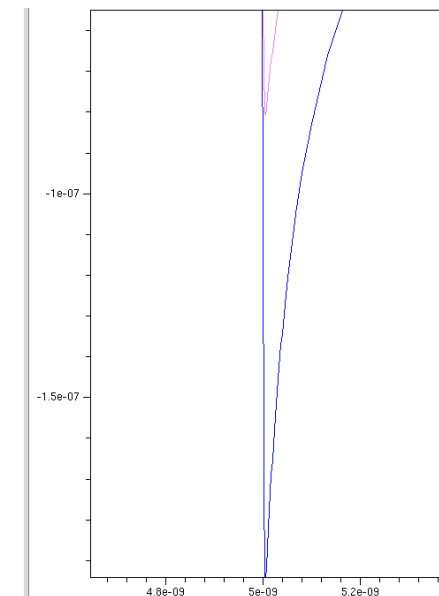
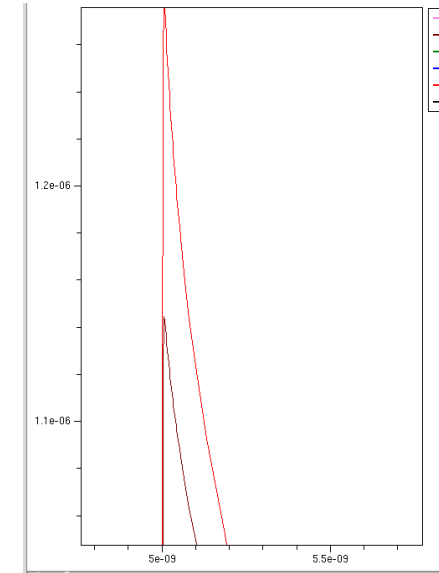
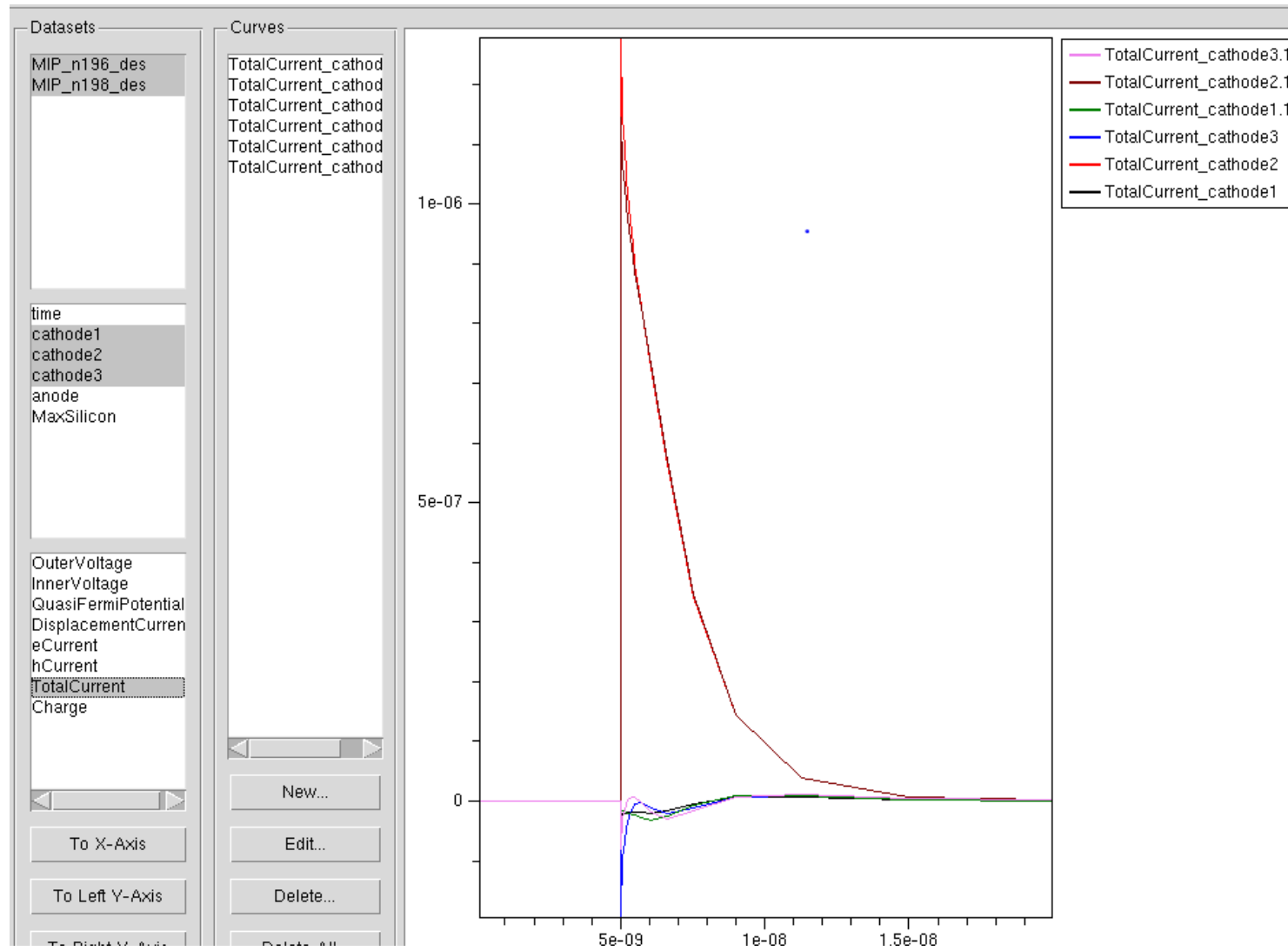
MIPを入れる場所を調整
posXを16にした
(=真ん中の電極の右端)
変化なし (右グラフ)

単純な構造体で表面損傷を考えると、pstopの有無でMIPの応答に変化はおこらない

MIPの応答
横軸：時間t[s] 縦軸：電流[A]



- TID 0、TID300のときのMIP応答を比較
損傷を受けると信号強度の絶対値が小さくなる



- TID 0、TID300のときのMIP応答を比較
→ 損傷を受けると信号強度の絶対値が小さくなる

Cathode2(左)

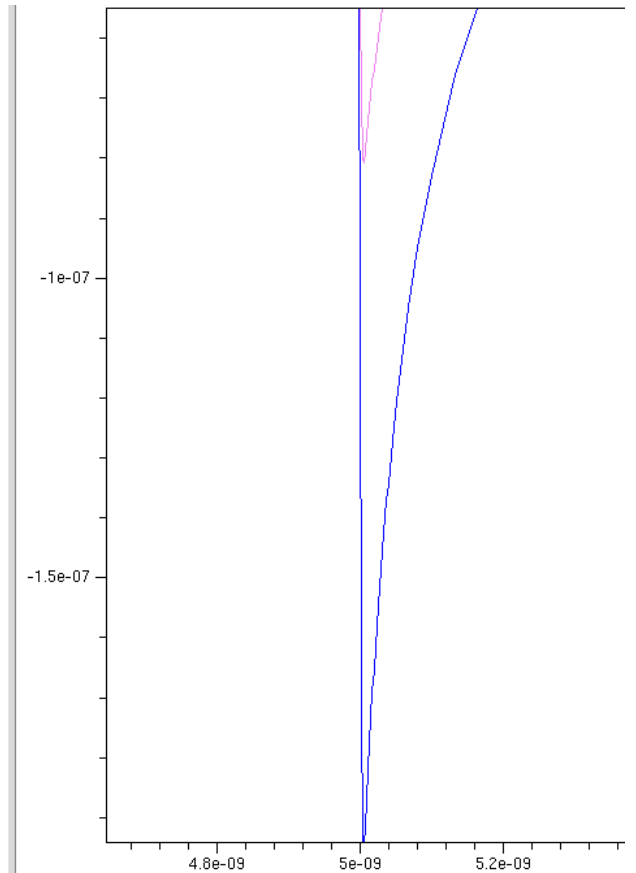
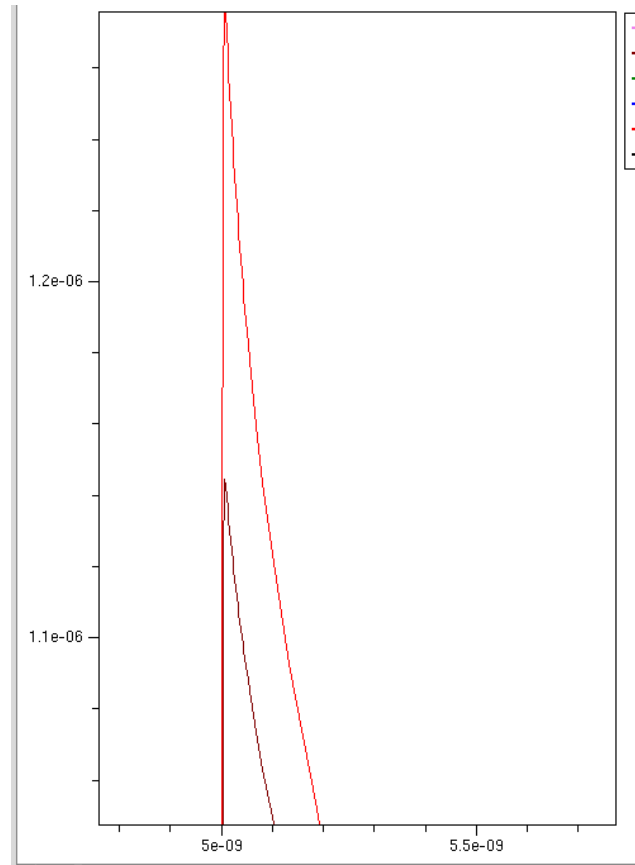
TID0 : $1.277e-6$

TID300 : $1.145e-6$

Cathode3(右)

TID0 : $-1.946e-7$

TID300 : $-8.005e-8$



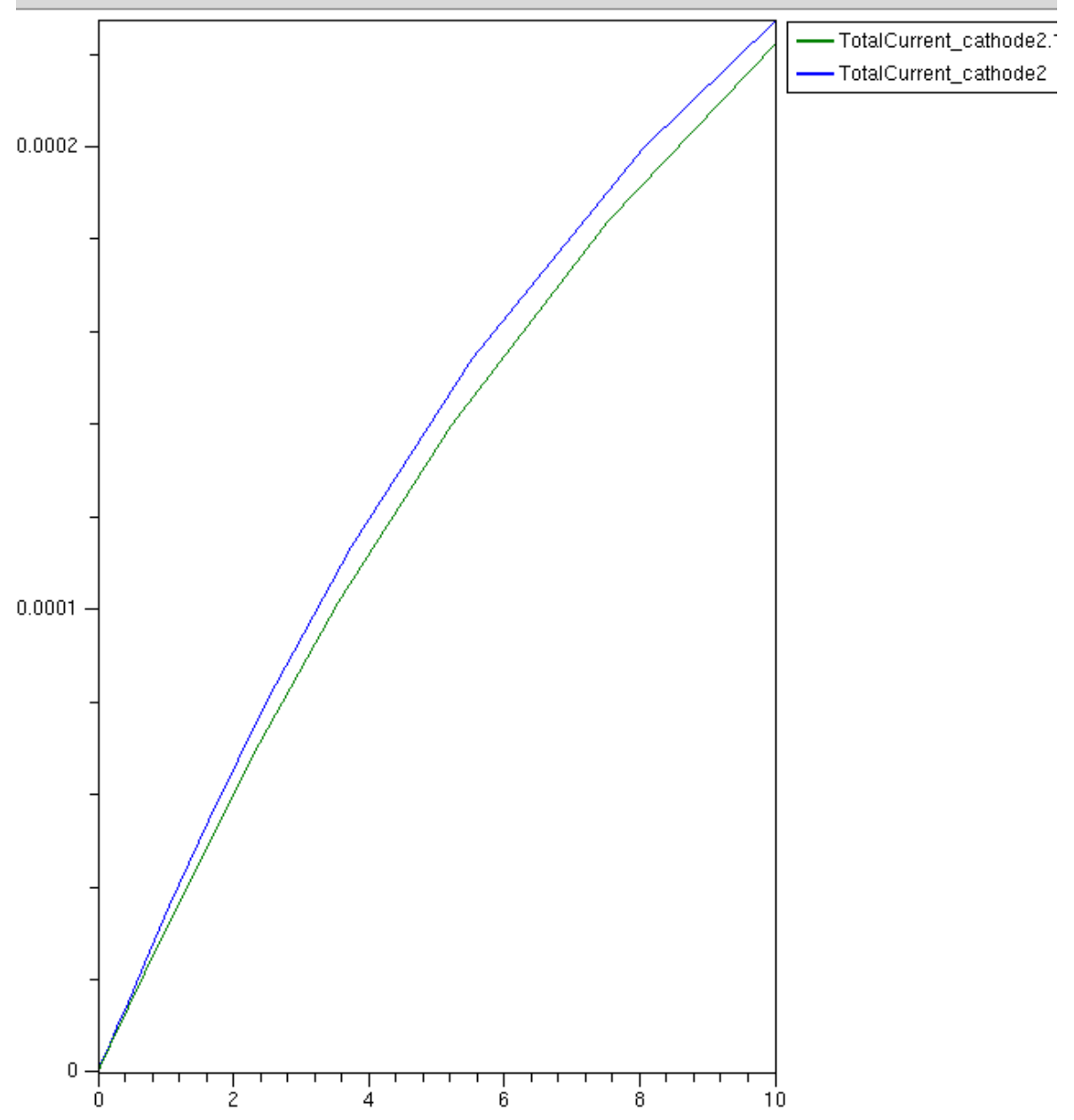
電極間の抵抗を求めた
計測方法は課題1と同じ

TID300のときのIV曲線

青：pstop有

緑：pstop無

= pstop有のほうが
電極間抵抗が大きい



TID300においてPstop有り無し
で電子密度を比較

→pstopが有る方が
電極間の電子密度が
大きくなりにくい

結論

単純な構造体で表面損傷を考えるときは、pstopの有無で、抵抗
の値と電子密度が少し変化する。しかしMIPの応答には変化なし。

